

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2771602311		
法人名	テルウェル西日本株式会社		
事業所名	ケアポート大阪西吹田センター グループホームやすらぎ		
所在地	大阪府吹田市出口町17番33号		
自己評価作成日	平成 24年 6月 20日	評価結果市町村受理日	平成 24年 9月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設前には、市立図書館・総合福祉会館・保健所と公共施設があり、時には福祉会館の喫茶に出かけたりしています。又、近くには公園があり、季節の花々、秋には紅葉と緑に包まれ散歩を楽しんでおります。同事業所内のデイサービスでの行事にも参加し、月に1度は、大浴場やリフト浴を楽しんでいます。近況では、階段の踊り場にて季節に合わせた飾り物の展示を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2771602311&amp;SCD=320&amp;PCD=27">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2771602311&amp;SCD=320&amp;PCD=27</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 7月 27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

NTT西日本株式会社のグループ会社である、テルウェル西日本株式会社が運営する2ユニットのグループホームです。ホーム周辺には公園があり緑が多く、利用者が気軽に活用できる総合福祉会館などの公共施設が立ち並び、めぐまれた環境にあります。ホーム前の敷地が広く、ミニ花火大会などの催しを行い、地域との交流もできる場所になっています。利用者家族は熱心で、運営推進会議のメンバーとして5人が参加し、積極的な発言を行うなど、ホーム運営に大きな役割を果たしています。職員は熱心で常に利用者・家族の意向を大切に取り組んでいます。利用者の安全を図るために市担当課職員の助言を得て、ホーム内に安全推進委員会を立ちあげ、転倒事故防止等に取り組む、1年間で事故数を半減させるなどの成果を上げています。ホームでは近隣住民や総合福祉会館にも協力を依頼して、非常災害時の支援体制を整備しています。また、地域住民等に呼びかけ「介護予防教室」を継続して開催するなど、地域貢献にも努めています。地域との連携も良く、職員の育成にも力を入れており、今後もさらにサービス向上が期待できるホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心・安全・信頼」をモットーに常に真心と優しさで利用者様に接し、「明日もここで過ごしたい」と思っていただけサービスを提供いたします。」を基本理念として挙げ、別にグループホーム事業基本方針をも定めています。	「安心して楽しく過ごせる我が家のような空間を作り出し、『安心・安全・信頼』をモットーに真心と優しさを持ってサービスを提供します。」を事業法人の基本理念とし、『なごやか』『いきいき』『ゆったり』と利用者が地域の方々と共に安心して暮らせるように支援しています。また、事業基本方針の一つとして「グループホーム運営推進会議等により地域に開かれたグループホーム作りを行い、要望助言等を受けサービスの質の向上を図ります」と明記して、地域密着型サービスの実践に努めています。	管理者は介護スタッフが多忙な日常業務に追われ、理念の実践がおろそかにならないように配慮しています。職員一人ひとりのスキルをさらに高め、管理者と職員が力を合わせて、今後も引き続き理念を活かした利用者支援を進める予定です。今後の取り組みが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所連絡会や夏祭りの参加等の他施設、地域住民との交流も積極的に参加しています。最近では「介護予防教室」の開催を地域に案内しています。	夏祭りなどの地域行事に参加したり、同法人デイサービスを利用している高齢者と行事を通じて交流したりしています。道路を隔てた総合福祉会館ロビーに出かけて喫茶室でお茶を楽しみながら、地域の人々と挨拶を交わしたり談笑したりしています。また、地域住民等に呼びかけ、「介護予防教室」を継続して開催するなど、地域貢献も果たしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	吹田市の地域の福祉委員会、民生委員の報告会等への参加し、認知症についての理解、又地域の支援サポーターに活かしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しています。利用者様の状況報告や意見交換、検討事項やその後の経過報告等を話し合い、サービスの向上に向けて、日々取り組んでいます。	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的で開催しています。利用者家族が5名構成メンバーとして登録され、会議には常に複数名の参加があり、ホーム運営についての積極的な発言や提言を行っています。ホームでは運営推進会議で出された提言や助言等を重視し、サービス向上に活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	吹田市のグループホーム、特定施設と介護保険課職員との定例事業者部会に参加し、意見・情報の交換・相談等の話し合いに取り組んでいます。	市の担当者とは相談しながら事業を進めています。市からの助言を受けて、事故防止を図るために事業所内で安全推進会議を立ち上げ、事故防止等に取り組んだ結果、一年間で事故が半減するなどの大きな成果を上げています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠となっていますが、利用者様が外出しそうな様子を察知したならば、一緒に外出するなど安全面に配慮し、自由な暮らしを支えるようにしています。身体拘束はしないケアの実践に努めています。	ホームでは「身体拘束排除の方針」を職員間で徹底する為に、マニュアルを作成して取り組んでいます。玄関には、安全確保のために終日鍵をかけていますが、「鍵をかけないケア」についての意義は理解しています。利用者の自由な暮らしを支えるために、外出の希望があれば職員が付き添い、外出するなどの努力をしています。	玄関の施錠については利用者が閉塞感を持たないよう、また、心の自由が保たれるように「鍵をかけないケア」に取り組むことが期待されます。安全推進会議や運営推進会議等で話し合い、利用者の安全を守りながら玄関を解錠するためにはどうすればよいか、本格的に検討してはいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアで虐待となる可能性のあるケアについて、介護スタッフ間で話し合いを行い虐待防止に努めています。又高齢者虐待防止について、研修会も実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の高齢者・重度化が確実に進行しているところから、介護スタッフの勉強会等を通して、基礎的知識を習得させると共に、今後同制度を必要とされる家族様への活用に具体的に繋げて行く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時には、契約書・重要事項説明書を基に説明し、不安や疑問について納得行くまで話し合い、納得をいただいた上で入居手続きを開始しています。締結改定等も同様に納得を得た上で手続きを進めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート実施、運営推進会議への結果報告、全員の家族様へ送付等を通して、より良い施設運営を目指しています。また、介護スタッフは環境改善に向けて日々話し合いを行っています。	利用者、家族の意見や要望を重視して、何よりも優先して実行するようにしています。家族がホームに来られたら職員から積極的に報告をしたり、意見を聞いたりしています。また全家族対象のアンケートを実施し、ホーム運営に活かしています。運営推進会議では、家族がホーム運営や利用者支援について具体的な提言を行うなど、職員と家族の協力関係も見られます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b>                      代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフ会議や毎日の申し送りの中で、提案や意見を聞き報告し、反映させるように働きかけています。</p>	<p>管理者は、日頃から職員の意見を聞く機会を多く持っています。また、所長が年に2回程度個別面接を行い、職員一人ひとりの意見や要望を確認し、対応しています。また、スタッフ会議や安全推進会議等で出された提案や意見については、全体の合意を得てホーム運営に活かしています。</p>	<p>ユニットごとに開催される全員参加のスタッフ会議は定例化されていますが、それぞれのユニットの経験や工夫を互いに学びあうという点で、職員全体の会議を開催してはいかがでしょうか。</p>
12		<p><b>○就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の個々の努力や成果・実績について業績評価あ或いはスキルアップ賃金加算制度を導入し、熱意と向上心を持って業務が行える環境に努めています。また、労働条件に関しても、労働基準法を遵守し、働き甲斐のある職場環境整備に努めています。</p>		
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的に研修の機会を設け実施し、スキルアップを図っています。日々のケアの中で困難に感じる事があったならば、その都度ケーススタディとして議論し、技術や知識の向上に取り組んでいます。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吹田市の民生委員、福祉関係者、地域の他事業者の連絡会、交流会に参加しています。同業者との勉強会や見学を通して、サービスの質の向上を図っています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の気持ちに寄り添い、安心安全な日常生活が送れるよう心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様、家族様の思い、考えを傾聴し、しっかり受けとめ信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、家族様のニーズは何かを把握し、また専門的立場からみた必要な支援についても対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩、共に暮らす生活者としての視点で信頼関係を築くように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	母の日、敬老会、クリスマス等の季節の行事を行い、家族様と食事会するなど交流を深めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域での交流があった友人や親戚の方が来られた時は、今までの関係が保てるよう支援しています。	友人や知人の来訪がある場合には、利用者とゆっくり話ができるように支援しています。馴染みの美容院を利用したり、墓参りをしたり、馴染みの場所に出かける希望がある場合には家族の協力を得るなどして、関係が途切れない支援に努めています。年賀状や暑中見舞い、手紙などを出される場合には、利用者の状況を見て必要な支援をしています。また、友人等に電話をされる場合にもその都度支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、食事の席を隣にするなど、楽しい時間が少しでも多く、保てるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービスの利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設等へ移動時は、利用者様の状況、習慣、ケアの工夫、思い等を伝えていきます。その後も今までの家族様との絆を大切に相談や支援に努めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、行動・言動・表情から把握に努めています。把握が困難な場合は、家族様からも情報を得るようにしています。	職員は利用者一人ひとりに個別に対応する時間を作って、話を聞くようにしています。言葉で表現できない場合にも表情や仕草、声のトーンなどで意向や希望を確認しています。また、確認が難しい内容や課題の場合には家族の意向を聞き対応しています。	ホームでは重度化が進行した場合の意思疎通が困難な利用者に対してパーソン・センタード・ケアの「人を尊重する」考え方に基づき、昨年研修を受けて考え方を習得した職員を中心に、利用者の視点や立場に立った支援を進める予定です。今後、取り組みの成果が期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までのサービス利用状態を家族様から聞き取り、関係各所より情報を得て、今までの生活の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族様からの情報や日々の生活の中で、支援しなくてはならないことは何なのか、見極め現状を把握しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>利用者様（意思疎通のできる人）、家族様の思いや要望を聞き、反映させている。定期的にあセスメント・モニタリング・カンファレンスを職員全員で行っています。</p>	<p>計画作成担当者は利用者・家族の意見を聞き、さらに必要な場合には訪問看護師、主治医等、関係職種の意見を聞いて計画策定をしています。朝夕の送りやスタッフ会議で把握した利用者状況を基にアセスメントを行い、計画を作成します。計画はさらにスタッフ会議に提示し、確認を行います。最終的には家族に説明をして了解を得ています。介護計画書は6ヵ月毎にモニタリングを行い、見直しをしています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日介護記録を記入し、朝・夕の申し送りを行い、個々のその日の状態や特別なことは伝達しています。介護スタッフ間の情報を共有し、支援や介護計画の見直しに活用しています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>通常シャワー浴しか利用できない利用者様も居られるので、月1回併設するデイサービスの大浴場にあるリフトを使い浴槽に入らせていただいています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣には、福祉会館や公園があり、福祉会館でのお茶会や公園を散歩する等をして四季を楽しんでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医による月2回の定期往診、ご家族様が希望する主治医の受診を行っています。 状態変化時は、夜間でも提携医の往診をいただき、緊急医療対応を実施しています。	利用者・家族の希望に添った医療機関で、適切な医療が受けられるように支援しています。希望があれば月に2回、ホーム提携医師の往診が受けられます。また、緊急時には夜間でも提携医師の往診や指導を受けることができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問看護師による利用者様の状態を把握しています。 身体異常や問題点が見られたならば、提携医への連絡並びに対処方法の指示を受け、適切な対応を実施しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族や入院先の相談員に入院中の経過をお聞きし、病状や退院後の対応等について、医師・看護師・ご家族と話し合いの場を設けて話し合っています。その結果を提携医へ報告し関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期について家族様と施設で対応できる様に話し合っています。</p> <p>ターミナルケアについて、職員研修実施や提携医、訪看との協力等の医療連携を整えて支援に取り組んでいるところです。</p>	<p>「看取りに関する指針」を定め、入居契約時に重度化した場合の対応について説明をしています。家族アンケートを行い、看取りについての意向等を確認しています。また、ターミナルケアについて職員研修を行い、医師や看護師との連携調整も行いながら看取り支援の体制を整備しています。しかし、現在までに、ホームで看取り支援を行った経験は無い状況です。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時のマニュアルを整え、介護スタッフの応急手当や対応の研修も行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防署と連携を行い、年2回の防火訓練を実施しています。また、地域近隣の福祉会館や住民の方に協力体制を依頼し支援体制の整備を行っています。合わせて、災害時の備品等も備蓄しています。	非常災害時マニュアルに添って、年に2回、防災避難訓練を実施しています。消防署には協力を依頼していますが、備品を借りて使い方の指導を受けた後、職員と利用者で自主的に消火訓練や避難訓練をしています。また、近隣住民や市の総合福祉会館にも協力を依頼して、非常災害時の支援体制を整備しています。災害時の備蓄については、ホーム内に一部準備していますが、その他は他市にある同法人の本社機関に備蓄しています。	ホーム内の備蓄について、飲料水の増量をしてはいかがでしょうか。また、保存期間の確認等を含めて年に2回、防災避難訓練時に職員間で在庫等の確認をすることが期待されます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人権を尊重し、尊厳と権利を守りプライド、羞恥心を傷つけることがないように常に声掛けに気を付けています。利用者様の対応については、話し合い改善に努めています。	職員は利用者一人ひとりを大切にしたい言葉かけや対応をしています。職員間で話し合い、常に適切な対応ができるように日々取り組んでいます。重度化された場合でも利用者の意思を汲み取り、表情を確認しながら支援しています。職員は、入職時に守秘義務についての契約書を交わしています。	管理者は介護スタッフに対して、介護技術とは別に、介護における権利擁護の考え方や関係諸制度等について十分な知識習得を行い介護のプロとしての専門性を高めるために研修等を実施して行く予定です。今後、取り組みの成果が期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の言葉や気持ちを受け入れるように、日頃から話しかけや相手の言葉に対して傾聴するように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活ペースに添えるように、起床・食事・入浴・レクリエーション・就寝等の時間は、可能な限り希望に沿った対応を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望を聞きながら体調や季節に合わせて、衣服を選んでいただいています。意思疎通の困難な方には、家族様のより情報を頂き、好みの衣服を着用いただいています。月1回地域の理容店の訪問により、希望者のみカットして頂いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、利用者様の希望を聞きながら体調等を考え、刻み食やミキサー食を用意して利用者様と会話をしながら摂るようにしています。利用者様の出来ることを把握し、配膳や片づけのお手伝いをお願いしています。	食事は3食ともにホームで作っています。食材は栄養バランスやカロリーを考えて作られた献立に添って業者から搬入されます。職員は利用者の希望や状況に合わせて食べやすく食材を調理します。また、盛り付けや下膳など、利用者のできることを一緒にしています。月に1回は利用者と共に献立を作り、食材の買物から利用者と共にしかけて食事作りを楽しんでいます。利用者の希望に添って、外食を楽しむこともあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	栄養の摂取が難しい方には、栄養を補 えるものを勧めています。水分もムセ たりされる方には、ゼリーやトロミなど を用意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはお声掛け、介助 にて実施し、自立の利用者様にいたっ ては、時を見計らい確認を実施。又、 月1回歯科衛生士により口腔ケアを実 施され、衛生士との連携をとり次回ま での口腔ケアについてのアドバイスを 受けています。口腔ケア困難な利用者 様については、週1回の割合で歯科衛 生士による口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	記録参照し利用者様の1日の排泄回 数を把握し、時を見計らいお声掛けを行 い、トイレ誘導を実施しています。一部 介助の利用者様では、出来る所を自 分自身で行い、出来ない所をさり気な くフォローしています。自立の利用者様 には、トイレより出て来られ時、さり気 なくフォローするようにしています。	排泄記録をもとに、利用者の排泄間隔 を考慮してトイレ誘導をしています。ま た、排泄が自立している利用者にも、 清潔が保たれるように声かけを実施し ています。職員が利用者の心理を理 解して細やかな支援を行う中で、排泄 が自立に導いた事例もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、水分補給、腹部マッサージ、腹部ホットパックの対応を実施しています。お天気の良い日はお散歩に出かけると共に、週に1回訪問看護師、提携医との連携を図り、便秘対応の指導を受けています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ずつゆっくり入ってもらっています。入浴を嫌がられる利用者様には、無理強いせず、時間を空けて再度声掛けや対応に心掛けています。最近、車イスの方が多くなられ、ゆったりとして個浴希望に対して、現在月1回併設するデイサービスにてリフト浴を実施しています。	利用者一人ひとりに週2回の入浴日を設定していますが、それ以外の日でも入浴を希望される場合には、入浴することができます。重度化された利用者にはゆっくりと入浴してもらうために、月に1回併設するデイサービス施設での大浴場への入浴や、リフト浴を実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活性化に努め、安眠していただけるようにしています。又、その日の体調に合わせて休息していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	間違いなく服薬が終えているかの確認のチェックを行っています。目的、副作用、用法は、処方箋にて確認し症状の変化時は、提携医の指示を受けています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲内で家事や手作業に参加していただいています。また、天気の良い日には、散歩に行ったり近くの喫茶店に行くこともあります。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気やご希望によって買い物や近くの公園へ散歩や施設内駐車場にて外気浴等を行っています。又、年2回家族様へも参加をお願いしてお花見会や秋の紅葉を楽しんでいただいています。	買物や散歩、近くの総合福祉会館の中にある喫茶室に出かけるなどが日常の外出支援です。年間行事ではお花見や夏祭り、公園へ秋の遠足、初詣などがあります。家族の協力を得て墓参りや美容院等へ出かけることもあります。	利用者がホームの敷地から外に出て、ホーム以外の人とふれあう機会が週に何回あるのか、一人ひとりの外出状況を細やかに把握して、今後の支援に生かすことが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物では、介護スタッフの見守りの中で利用者様が支払いを行って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族様からの電話、利用者様から希望された電話は、その都度取次ぎしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テレビの音、温度、光の調節等に配慮し、快適な住環境作りを意識しています。また、季節の花を玄関に飾り、生活感を取り入れています。</p>	<p>ホームは1・2階にあり、1階にはデイサービスセンターが併設されています。総合玄関を入り右手に1階の玄関があり、つきあたりのエレベーター、階段を上がると2階の玄関があります。ホームの玄関は広く、通路も広々としています。玄関やフロア、食堂兼居間にはソファーやイスを置き、利用者が自由に好きな場所でくつろげるようにしています。ホーム内には季節の花や飾り付けをして、季節が感じられるようにしています。職員は空調にも配慮して、居心地良く過ごせる共有空間にしています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関先やフロアー、食堂と数カ所にイスやソファーを配置し、好きな場所にて心安らかに落ち着いて過ごせるように配慮しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様や家族様と相談し、馴染みの物や写真、装飾品等、思い出の物を持ち込み、居心地良く快適な生活が過ごせるように工夫しています。	居室入口には、利用者の写真や作品、暖簾などをかけて自分の部屋を分かりやすくしています。室内には使い慣れたベッド、タンスや仏壇、イス、ぬいぐるみ、写真などを置き、それぞれが個性的な居室になっています。居室窓からの景観が良いことも、居心地良く過ごせる環境の一つです。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室へは表札、写真、飾りやトイレは表示し、利用様が混乱なく安全に快適な生活が送れるように環境整備に心掛けている。危険なものは、鍵のかかる場所に保管している。		